

中国空軍ニュース：中国が新型戦略爆撃機を開発

漢和防務評論 20171209(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、空軍独自の戦略を確立し、その一環として新型戦略爆撃機を開発を行っています。現在は、基本設計がほぼ完了した段階とか。
開発の目的は、米国本土の戦略目標に対する核又は通常兵器による巡航ミサイル攻撃です。
KDR は中国の戦略爆撃機が米国本土の目標を攻撃するためには、航続距離から、ロシア上空を通過する必要があり、事実上不可能であると述べています。日本に対しては、中国本土上空から巡航ミサイル攻撃が可能で現在は対処の方法がない。

平可夫

KDR は、5 年前に、中国は新型戦略爆撃機開発を事業化したと報道した。中国空軍は、その前の空軍装備工作会議で、過渡的な戦略爆撃機、及び新型の戦略爆撃機の開発計画を確定した。計画は”戦略目的”が強調された。消息筋は KDR に次のように述べた：この会議でまず最初に決定したことは：空軍独自の戦略を持つことであった。長年にわたり中国の海軍、空軍は、自らの戦略は持たなかった。これ以降、中国は、軍事学術界において空軍戦略、海軍戦略理論の確立を開始した。

中国の空軍戦略の基本定義は次の通り：

第一、空軍は戦略軍種であり、核戦略任務を含む、軍事委員会が計画した一連の戦略攻撃任務を独立して完遂出来なければならない。また、その他の戦略軍種と聯合して戦略攻撃任務を履行できなければならない。

第二、空軍戦略を確立したからには、空軍装備は、戦略要求を満足させるものでなければならない。KDR は、空軍の戦略任務達成のため、全部で 6 つの戦略装備開発計画が確立されたのを知った。それは、戦略爆撃機、戦略早期警戒システム、戦略対弾道ミサイルシステム等々である。

したがって戦略爆撃機を開発することは、戦略装備開発の一環であり、それが全てではない。KDR の読者ならば、中国の H-20 爆撃機、戦略赤外線早期警戒衛星、新時代の戦略対弾道ミサイルシステムの出現にすぐに気付いたであろう。後者の計画は、3 つの段階に分けて対処する戦略対弾道ミサイルシステムを建設することである。それは、中距離弾道ミサイル及び長距離弾道ミサイルに対し、ミッドコースで 2 段階、及び終末フェーズで 1 段階の迎撃システムである。

KDR が掌握した情報は次の通り：空軍戦略の確立、空軍戦略兵器開発の第一の目標は、米国攻撃である、と。

ここでいう空軍戦略兵器とは、航続距離が長く、核または通常兵器による攻撃能力を具備し、戦略目標を攻撃できる兵器、H-20 戦略爆撃機を指し、事業化の当初から、米国本土に対し核及び通常兵器による攻撃が可能な戦略爆撃機、とすることが決定された。

5 年前の事業化時、15 年以内に新時代の戦略爆撃機を開発することが基本目標であった。したがって 5 年過ぎた現在、基本設計はすでに終了間際にある。055 ミサイル巡洋艦、J-20 戦闘機の例から見ると、資金は十分にあり、さらに大型機 Y-20 輸送機開発の経験を有していることから、KDR の予測では、H-20 の開発は外部世界の予想よりも多少早まる可能性がある。

したがって簡単明瞭、要点だけを説明すると：H-20 は米国本土の戦略目標を攻撃する機体であり、そのような設計基準で、一部のステルス化、搭載ミサイルの長射程化が図られる。米国本土を狙う H-20 搭載ミサイルの射程は、約 1500 乃至 2000KM である。この距離では米国本土の長距離レーダーは H-20 を探知することができない。このような戦略要求に基づいて H-20 の外形設計がなされ、J-20 に類似のステルス化が要求された。しかし旧世代のソ連爆撃機 TU-160 を単に模倣したものではないようだ。

KDR は、1990 年代初中期にウクライナを訪問した時、中国が TU-160 戦略爆撃機の設計技術を手に入れようとしていること、上手くいけば見本になる機体を獲得したがつていることを知りすでに何度も報道している。しかし、ロシア及び米国の監視が厳しく、ロシアとウクライナが協議し、戦備状態にある TU-160 を含む全てのソ連空軍戦略爆撃機は直ちにロシアに戻された。したがって中国の持ち去りを免れた。現在は、2機の TU-160 だけがウクライナの博物館に残る。KDR がこの 2 機の TU-160 を詳細に調査したところ、中国の設計師も TU-160 を詳細に研究したことが分かった。

H-20 の事業化においては、TU-160 の設計思想は採用しなかった。しかし TU-160 のエアロダイナミクス、攻撃武器の設計思想を詳細に研究したことは、依然として中国が H-20 を開発する際の助けになったはずである。

H-20 の出現は、中国戦略空軍が今後、空中から核及び通常兵器で米国本土を攻撃する能力を具備することを意味する。また中国の核戦力が海軍から空軍へと、米国本土に対する三位一体の核打撃力を正式に形成することを意味する。現在の H-6 では不可能である。

このような任務に基づいて、現在すでに基本設計が完了した H-20 に要求される性能は次のとおり。

1. 6 発の KD-20 巡航ミサイルを携行する前提で、作戦半径は 5000KM 以上。これは空中給油を必要とし、航程は 10000KM を超える。

2. 2 つのステルス弾倉に少なくとも 6 発の巡航ミサイルを格納出来ること。このミサイルの空中発射型は射程 2000KM に近く、多種類の識別装置を有し、BD-2 衛星誘導システムを採用する。H-20 の武器搭載量は 25 乃至 30 トン以上である。

3. 超音速巡航能力を有し、外形はステルス化されている。しかし材料技術が劣り、B-2には似ていない。

4. 鍵はエンジンである。試験飛行段階のH-20は、最終的に就役するH-20とは異なる可能性がある。試験飛行中のH-20はロシアのD-30-KP2エンジンを採用している可能性があり、バッチ生産に移行した段階では国産化されたエンジンを4機搭載するはずである。

5. 現在、出現している各種のいわゆるH-20の模型、及び衛星写真と称するものは、全て本物ではない。なぜならこの爆撃機は現在最後の設計段階にあるからだ。H-20は、J-20に比べてさらに秘匿度が高い。試作機も工場内部で製作される。当時のB-2爆撃機も同様だった。いかなる国家も、戦略爆撃機の開発は最高機密である。

KDRは次のように説明したことがある：エアロダイナミクス研究のため、中国航空工業は、縮尺1:1のF-22戦闘機模型を製作した。当然、1:1のB-2或いはB-21模型も製作した、と。

しかしKDRは次のように考える：H-20に真に米国本土を攻撃できる戦略任務を付与するのは難度が相当高い、と。或いは現在の国際情勢を考えれば、およそ不可能である、と。

第一に進攻ルートを考えてみると、ロシアとは状況が異なる。ロシアのTU-160は、北極上空を通過して米国本土を攻撃する。戦闘巡航は北極上空を飛んでミサイルを発射する。必要時には、SU-54、SU-30SM戦闘機による護衛ができる。

一方中国のH-20がサイパン、グアム、ハワイを攻撃することは理論上可能だ。中国南部の空軍基地から発進し、バシー海峡を通ると、グアム、サイパンとの直線距離は3300KMである。H-20のステルス性を利用して直接グアムに対しKD-20巡航ミサイルを発射可能である。南部の空軍基地は、ハワイまで9300KMもある。H-20は空中給油しなければならない。給油機はステルス機ではなく、帰還途中、米空軍の迎撃を受ける可能性がある。

H-20は、どのようにして米国本土を核攻撃するのか？東北部のどの空軍基地も米国本土から直線距離で8000KM以上あり、全てロシア上空を経由しなければならない。アラスカを攻撃する場合も基本的に同じである。ロシアの領空を通過しなければならない。

したがって、H-20は、實際上、グアムの米軍基地を攻撃する能力しか持たない。日本本土の米軍基地について言えば、全ての日本領空は、中国東北部、南部の軍用基地からの距離が1500KM以下である。現在のH-6Kは、中国本土上空から対日巡航ミサイル攻撃が可能である。

中国は5年前の空軍装備会議において、戦略爆撃機開発の事業化を決定し、過渡的な戦略爆撃機としてはH-6Kを選択した。H-6Kは、頻繁に台湾海峡東部、

日本海等に出現する。かつ最近は空中給油能力を持つようになった。たとえこのような改修を行っても、**H-6K** の主要な作戦手段は、依然として本土からの巡航ミサイル発射である。台湾東部の周回飛行は、主目的は戦略威嚇であり、軍事的に見て、現実的な意義はない。速度の遅い **H-6K** は、ステルス機でもない。国境を離れた時点で、即刻発見され、撃墜される。

空中給油型の **H-6K** の出現は、航続距離を延ばすためではなく、核戦争への対応力を強化するためである。核戦争時の大国の空中核戦力は、長時間在空し、攻撃命令を待っている。戦略爆撃機が使用する飛行場は、当然、敵国核ミサイルの攻撃目標であり、戦時は必ず徹底攻撃を受ける。

H-6K は、全ての軍用飛行場に離着陸出来るわけではなく、使用するには滑走路の強度を強化しなければならない。このほか各種支援施設も整えねばならない。武器庫も不可欠である。そうでなければ、離着陸はできても戦略威嚇の意味はなくなる。したがって **B-52**、**TU-160**、**TU-95**、**B-1B** を配備するにあたり、空中給油能力を考慮する理由は、滞空時間を延ばすためである。

以上